

愛宕三丁目自治会創立 50 周年記念誌

「小桃源の昔より」

(Youtube 記念動画解説書)



目次

スマホで、この QR コードを読み取ると、Youtube 動画で、このしおりと同じ内容を見ることが出来ます。

- | | |
|-------------------|-----------------------|
| 1. 会長挨拶 | ・ 渡瀬地蔵堂 (第 11 番札所) |
| 2. 小島小学校 | 7. 精霊流し |
| ・ 校歌、歴史 | |
| 3. 小島地区ふれあいセンター周辺 | 8. おくんち神輿守 |
| ・ 愛宕町全景写真 | ・ 2025 年記念写真 |
| ・ 一人暮らし高齢者の食事会 | ・ おのぼり |
| ・ 敬老会 | 9. 防火・防災活動 |
| ・ 学童保育施設「あそびの会」 | ・ 第 10 消防分団詰所 |
| 4. エレナ周辺 | ・ 昭和 33 年の小島小学校火災 |
| ・ 石垣、小川 | ・ 昭和 57 年の長崎大水害 |
| | ・ 平成 13 年台風 19 号の強風被害 |
| 5. 白糸公園周辺 | 10. 旧吉田牧場周辺 |
| ・ 白糸の滝 | ・ 大正 11 年の写真 |
| ・ 白糸公園の桜 | ・ 昭和 37 年の航空写真 |
| ・ 浅田観音堂 | ・ デルノア通り |
| | ・ 歩道拡幅工事 |
| 6. 愛宕中央公園周辺 | 11. 愛宕山周辺 |
| ・ ラジオ体操 | ・ 愛宕神社 |
| ・ 夏祭り | |
| ・ 清掃活動 | 12. 歴代会長紹介 |
| ・ 薩摩藩蔵屋敷跡 | |

1. 会長挨拶：50周年を振り返る

愛宕3丁目自治会の皆さまにおかれましては、ご健勝の事とお喜び申し上げます。日頃より、自治会へのご協力、心から、感謝いたしております。

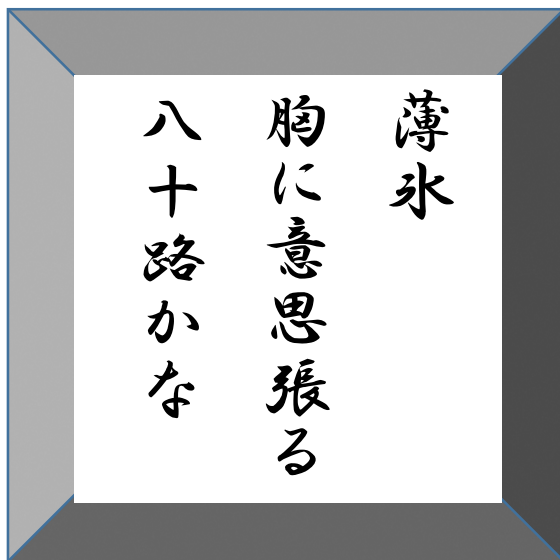
さて、当自治会は、昭和47年（1972年）に、長崎市の町名変更に伴い、旧「上南自治会」がいくつかに分れ、愛宕3丁目自治会として誕生しました。

現在、私が第四代自治会長として、平成10年より、27年間、務めさせていただいております。その間、一人暮らしの高齢者食事を婦人部の活動として、昭和63年から36年間、夏祭り大会を平成11年から10年間、実施しました。現在も、リサイクル回収、ラジオ体操、愛宕中央公園および白糸公園の清掃活動などを定期的に、実施しています。

また、「安全で住みよい助け合える町」を合言葉に市道の拡幅、横断歩道や信号の設置、道路ミラーや手すり、郵便ポスト、ゴミステーション、街灯の設置などを近隣の皆様方のご協力を頂きながら、進めてまいりました。

しかし、最近、近隣の自治会では、解散がっております。自治会活動に参加されないと見えない部分もありますが、長崎市と連携しながら、我が自治会は、2名の副会長始め、各部長、地区長の15名の役員で、頑張っております。今後ともに、ご協力くださいますように、お願い申し上げます。

引き続き、自治会活動が継続されるようにとの願いと、これまでのご協力に対する感謝の気持ちとして、「記念動画」と「記念誌」を作成しました。



令和8年7月吉日

愛宕3丁目自治会会長 園田 洋子

自治会会則が、制定されたのは、昭和45年ですが、長崎市の記録では、昭和47年4月に、長崎市全体で、新町名による自治会が発足したことになっています。

現在の自治会役員の役職と氏名は、最終頁に記載しています。

2025年現在、愛宕3丁目自治会の加入所帯数は、約160所帯で、会員数は、約300名です。また、愛宕3丁目全体(白糸、山中自治会も含む)の住民票登録簿によれば、総所帯数は、約650所帯で、総人口は、約1000名です。

愛宕町3丁目自治会の歴史

江戸時代は幕府領（慶長年間は大村藩領）のうち、長崎奉行の支配する「長崎町」を総称する地域と、長崎代官の支配する農村（長崎村・浦上山里村・浦上湊村）の3村がありました。長崎村は明治11年（1878）の郡区町村編成法施行により、上長崎村・下長崎村に分割されました。その後、明治22年（1889）には、市制・町村制施行により、下長崎村は長崎市に編入されました。さらに、明治31年（1898）には、戸町村・淵村・上長崎村の各一部が長崎市に編入し、下長崎村は自治体として消滅しました。

大正8年（1919）に発刊されたこの地図は、現在のバス道路が拡張される前のようです。



長崎市地番入分割図〈大正8年〉（長崎歴史文化博物館所蔵）

自治会の組織

長崎市には、976の自治会があります。（令和5年8月1日現在）自治会の規模は、10世帯以下から700世帯ほどの自治会までさまざまです。各自治会の連合組織として、概ね小学校区単位で、88の「連合自治会」があります。自治会の中には、数世帯から数十世帯で組織される班(組)がいくつかあります。班(組)は、回覧板に関することやごみステーションの管理など、自治会の中でもっとも身近な活動を行う単位です。

自治会活動を分かりやすく理解して頂くために、2025年に長崎市が作成したyoutube動画に、愛宕3丁目自治会関係者も参加していますので、御覧ください。

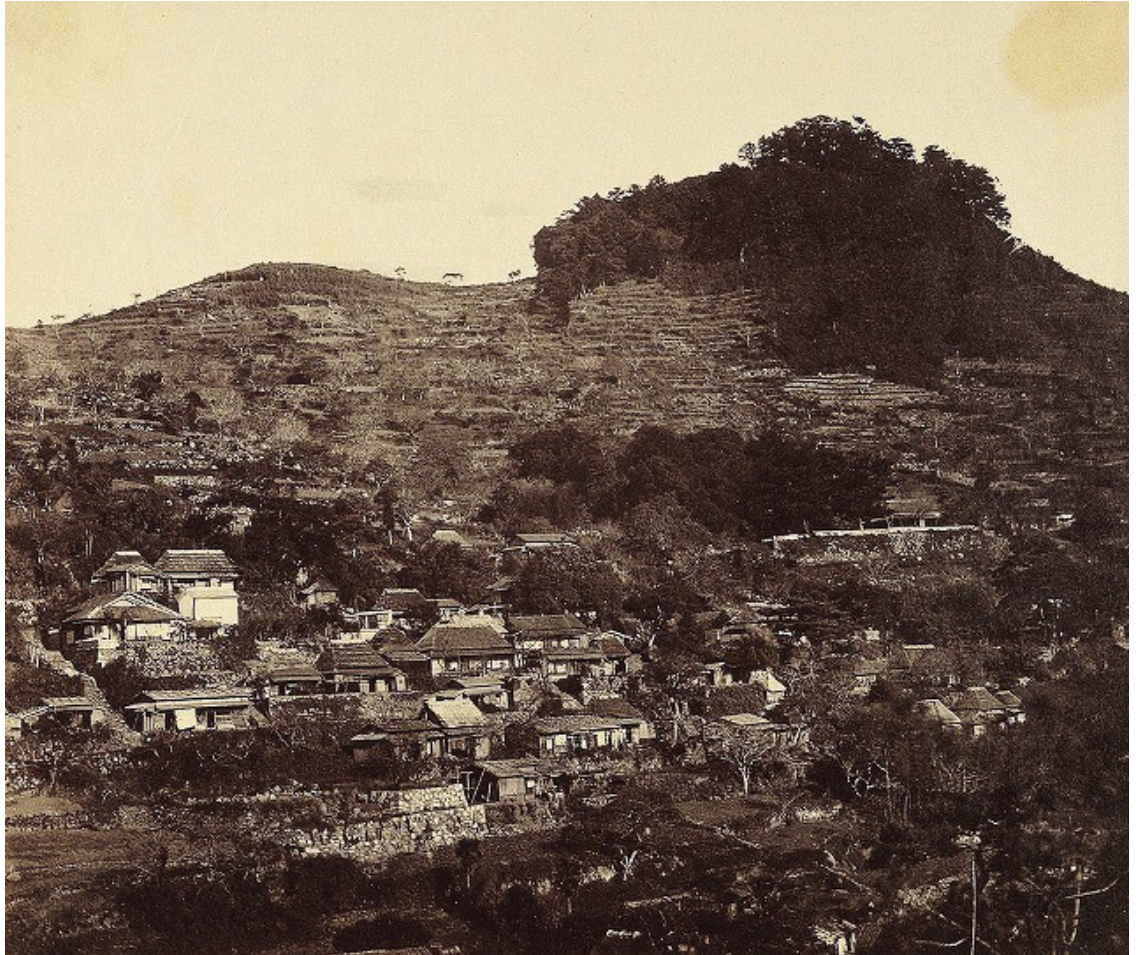


2. 小島小学校

幕末の1864年に撮影されたこの古写真（長崎大学附属図書館古写真ライブラリー所蔵）には、現在の小島小学校付近の風景を見ることが出来ます。



長崎大学附属図
書館古写真ライ
ブラリー



(小島小学校ご提供)

沿革

前史

- ・明治2年（1869）：松本泰明氏が八坂町に私塾を開設しました。

正史

- ・明治17年（1884）：「下長崎村立小学校」となりました。
- ・明治19年（1886）1月14日
下長崎村小島郷鳴川に新築落成開講式を挙行されました。
以降、1月14日を開校記念日と取りました。
7月、小学校令の公布により「尋常小島小学校」と改称しました。
- ・明治26年（1893）4月1日、小学校令改正に伴い、「小島尋常小学校」と改称しました。
- ・明治32年（1898）10月1日、下長崎村が長崎市に編入され、長崎市が管轄する小学校となりました。
- ・明治34年（1901）4月1日、就学児童の増加に伴い、1年生対象に同年6月までの間、二部授業を実施されました。
- ・明治35年（1902）2月1日、仁田小学校の開講に伴い、1年生から3年生までの児童140名が移りました。
- ・明治41年（1908）現在地に校舎が完成しました。
- ・昭和16年（1941）4月1日、国民学校令により、「小島国民学校」に改称。尋常科を初等科に改称しました。
- ・昭和22年（1947）4月1日、学制改革（6・3制の実施）により、旧・国民学校が改組され、「長崎市立小島小学校」（現校名）に改称しました。
- ・昭和33年（1958）3月5日午前10時25分、火災が発生し、東側木造2階建て校舎が全焼しました。児童1,907名は玉木グラウンドに避難して全員無事でした。また、3月10日には、授業を再開しました。



2026年校舎改築完成予定

小島小学校校歌

作詞： 田中 英二 作曲： 原 格太郎

1

小桃源の昔より 花咲きにおう この里の
学びの庭に生い立ちて みよの めぐみに 茂り合う
若き我等のよろこびを いざや歌わん もろともに

2

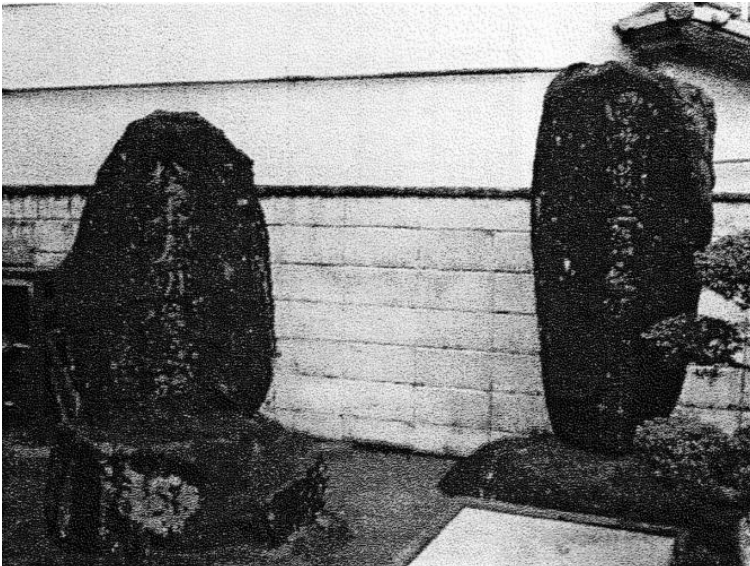
愛宕の山に照る月を 曇らぬ鏡白糸の
滝の流れと たゆみなく 朝夕（あしたゆうべ）に いそしみて
芳（か）しき桂（かつら）のかんむりを いざやかざさん もろともに

3

文化の泉ここにくみ みくにの栄 さとのため
古き港を新しく 永久（とわ）の力に生かすこそ
やがて我等のつとめなれ いざやふるわん もろともに

「小桃源の昔より……」で始まる小島小学校校歌は、昔、小島を訪れた中国の方がその美しさに「まるで『桃源郷』のようだ、『小桃源』だ」と呟いたことにその由来があるそうです。

作詞の田中英二先生は、明治29年から、小島小学校に、36年間、勤務され、俳人としても、活動されました。昭和9年ごろ、校歌を作詞されたようです。改築前の学校玄関には、小島小学校の創設者である松本泰明さんと並んで、田中先生の貢献に感謝する石碑がありました。



作曲の原格太郎先生は、上野音楽学校（現在の東京芸術大学）を卒業された後、戦前、大村市にあった女子高等師範学校の教師をされ、戦後は、一時期、桜馬場中学校の教師もされたので、小島小学校の卒業生で、音楽の授業を受けた方もおられるようです。戦後、新制の小、中学校が設立された際、長崎県内の校歌を15曲以上、作曲されました。

3. 小島地区ふれあいセンター周辺



愛宕町全景写真(2025 年現在)



寄贈 小林 勝

愛宕町全景写真(1974 年撮影)

この写真は、愛宕町にお住まいの写真家 小林勝さんが、昭和 49 年に撮影し、平成 18 年に、小島地区ふれあいセンターに寄贈されたものです。複数の写真を、パソコンでつないで、愛宕山を高めに表示するために、横幅を少し、圧縮されたそうです。この写真は、現在、小島地区ふれあいセンターの成人図書室に、展示されています。



↓自治会の要望で実現した道路拡幅と交通信号



写真の中央には、愛宕保育所が映っていますが、現在は、小島小学校の第二グラウンドとなっています。この愛宕保育所には、昭和27年から、「長崎市立愛宕町公民館」（その後、小島地区公民館と名称変更）が間借りしていたことがあります。写真の手前に見える道路は、交通事故が多発していたので、自治会の要望で、道路拡幅工事を行い、交通信号も設置して貰いました。



保育所の右横には、1970年頃に開業した後藤外科医院（院長：後藤健治さん）の建物が見えますが、1998年からは、学童保育施設「あそびの会」となっており、地域の子供たちが放課後、お世話になっています。これまでに、卒業した生徒さんは、約180名です。



1974年



2025年

愛宕町の中心にある小島地区ふれあいセンターは、自治会の集まり、サークル活動などに利用されています。このふれあいセンターの敷地には、写真の左側の破線で囲った部分に、長崎市消防署の官舎がありました。昭和62年（1987）に、長崎市で最初に、ふれあいセンターが建設される前は、この建物が、「小島校区集会所」として、愛宕3丁目自治会の集会などにも利用されていました。このような経緯については、ふれあいセンターが、10年毎に、製作されている「創立30周年記念」に、詳しく説明されています。

自治会では、このふれあいセンターで、昭和 63 年から令和 6 年まで、36 年間、毎月、一人暮らしの高齢者食事会を開催して来ました。

この食事は、自治会婦人部の方が、毎回、献立を相談して、作っていました。



この集まりでは、童謡「ふるさと」の旋律に合わせて、下記の「我が町愛宕 3 丁目」という歌を、皆さんと一緒に歌っていました。この歌詞を、平成 10 年に、作詞されたのは、上田伊津子さんと園田洋子さんです。この歌詞の中に出てくる「せりふ」には、愛宕 3 丁目に対する作詞された方のお気持ちが感じられます。

また、自治会では、毎年 9 月に、敬老会を開催していますので、この時も、この歌を歌っています。現在、愛宕町 3 丁目全体の住民票登録者数では、65 歳以上の割合が約 35%です。

一
花屋敷の 思い出
吉田牧場 懐かしい
今は 公園に 面影残し
昔のころ 語り継ぐ

二
桜道は 旧街道
今も流れる 白糸
行き交う人は 笑顔で
明るく元気に 挨拶

(せりふ)
我が町 愛宕三丁目は、さつま屋敷の裏屋敷跡などが、今も
かすかに残っている町内で、その昔、茂木街道に沿って発展し
ました。
そして、長崎の拡張に伴い、住宅地として拓けて行きました。
広く、大きくなった愛宕三丁目。
今、私達は、『住み易い、ハートのある、心豊かな町へ』との
願いを込めて、手を取り合い、声を掛け合って歩いています。

三
月に一度の 給食会
持ち寄る時間と アイディア
味は自慢の おふくろの味
明日に伝える 心意気

四
年に一度は バス旅行
笑顔 歌声 はじける
心は一つ 明日を目指す
愛宕三丁目 我が町



2025 年の敬老会

4. スーパーマーケット「エレナ」周辺

写真左の遠方に見える白い大きな建物は、ボーリング場でしたが、現在は、スーパーマーケット「エレナ」となっています。



エレナの前には、この地域で、切り出された「鉄平石」を使用した石垣があり、通称、「矢羽根積み」と呼ばれるそうです。この「鉄平石」は、溶岩が冷却する時に出来る板状節理という特殊な岩石ですが、愛宕町には、このような石垣が多くみられます。

また、エレナの裏の谷間には、小川が流れており、昔は、夏に、子供たちが水遊びをしたり、蛍も飛んでいたそうです。

エレナが出来るまでは、白糸の滝の近くに、白糸市場があり、地域の生活に必要な食糧を提供していました。現在は、市場の建物が駐車場として残っています。この駐車場前の道路が、白糸の滝と白糸公園に続いています。また、この道路の入り口近くには、白糸バス停があり、歩行者が関連した車との接触事故も、発生していましたので、自治会が要望して、カーブミラーを設置して貰いました。

自治会の要望で設置されたカーブミラー



5. 白糸公園周辺



白糸バス停の近くには、この名前の語源である「白糸の滝」があります。この白糸の滝は、現在、周りに家が建っていますが、近くの駐車場から見るができます。

白糸の滝では、昔、行者が滝修行を行っていたので、お参りの祠などが残っており、地域の方によって、維持されています。右側の写真には、鳥居に、「愛染寺稲荷大明神」とありますが、江戸時代にあった「神仏集合」の名残のようです。下の写真にある「山崎地蔵」は、長崎88番札所の第32番霊場となっています。毎年春と秋には霊場会の案内で廻ることができ、各霊場では湯茶等の接待もあります。





白糸の滝の上流には、白糸公園があり、春には、桜並木を見ることが出来ます。川沿いの道は、江戸時代、田上方面に向かう近道だったようです。この後、説明する愛宕中央公園の近くにある「薩摩藩蔵屋敷」に、集められた海外からの輸入品（武器、弾薬など）が、この道を通って、茂木港から、天草を経由して、鹿児島まで運ばれたようです。

この白糸公園付近には、戦後まで、浅田さんという方のお屋敷と観音堂がありましたので、今でも、電柱には、「浅田観音」という地名を見ることができます。昭和 17 年に、浅田ナオさんが、観音堂の地域を長崎市に寄付されて、戦後、白糸公園となりました。この公園では、昭和 20 年代には、地元の方が主催して、屋外映画会や演芸大会などが開催されていたそうです。なお、この映画を見た人の話では、映画は、青い山脈だったそうです。

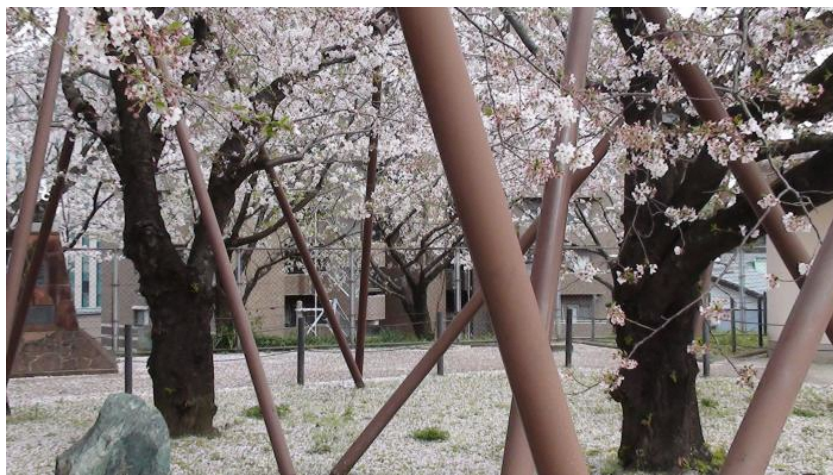
浅田さんのご自宅と浅田観音堂→



6. 愛宕中央公園周辺



愛宕町の中心には、愛宕中央公園があり、子供たちの遊び場や、愛宕町連合自治会が開催する夏休みのラジオ体操などに利用されています。



↑城山小学校の「嘉代子桜」

「嘉代子桜」二世の木→

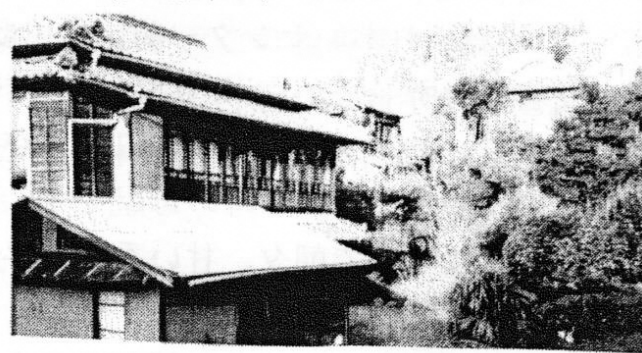
四年後の姿



愛宕中央公園には、城山小学校で、原爆により亡くなった娘さんを追悼するために、植えられた「嘉代子桜」の二世の木があります。城山小学校の「嘉代子桜」は、戦後 80 年が経過して、数が少なくなって来たため、その 2 世の苗木を、被ばく樹木の保護対策をされている樹木医の海老沼正幸さんの協力を頂いて、2021 年に自治会が公園に移植しました。



この愛宕中央公園には、大きな日本家屋がありましたが、約 30 年前に、マンション建設計画があった際、自治会から長崎市に要望して、平成 8 年（1996）に、公園を建設して貰いました。



公園建設前の日本家屋↑

上の写真は、愛宕町にお住まいだった岩永弘さんが出版された歴史書「小桃源小島の里」から、引用させて頂きました。この本はふれあいセンターの図書室で、読むことができます。

この公園では、平成 11 年から、10 年間、毎年、自治会が夏祭りを開催していました。

公園およびトイレの清掃活動は、自治会から呼び掛けて、地域の皆さんが、毎日、行っています。この公園には、昔からの築山がありますが、ここの草刈りなどを、ほぼ、毎日、行って貰っている方もおられます。



2008 年の夏祭り ↑



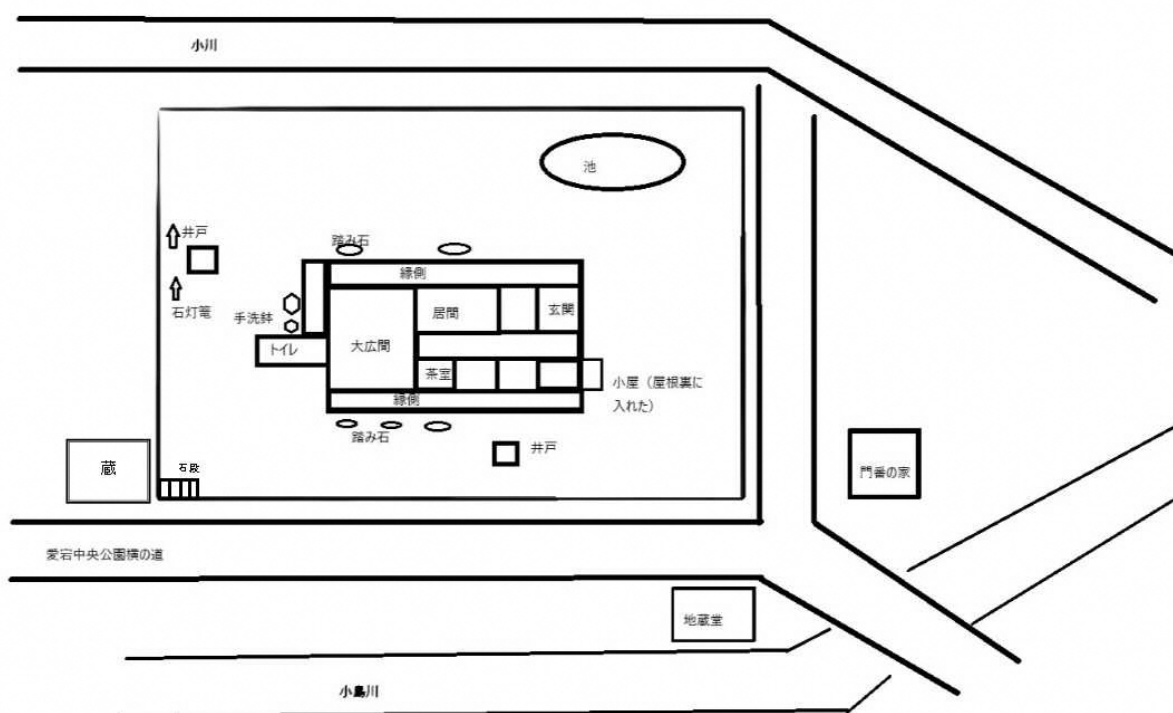
愛宕中央公園の横には、「道路改修工事記念碑」があり、「昭和 6 年春」の文字もあります。この道路は、古い石畳などから推定すると江戸時代に、地元の人たちによって作られたものと思われます。





愛宕中央公園の近くには、江戸時代の薩摩藩蔵屋敷跡があり、自然石を使った石壁に、その面影を見ることが出来ます。現在は、九州商船のアパートになっています。この石壁も、老朽化により、一度、解体されましたが、自治会の園田会長さんから九州商船さんをお願いして、原型に近い形で、復元されました。

薩摩藩蔵屋敷跡に、戦後まであったお屋敷の見取り図を、近くにお住まいの方の記憶で書いてもらいました。おそらく、薩摩藩蔵屋敷の敷地も、このようなものだったと思われます。蔵があった場所は、戦後、三菱重工の「白糸」女子寮となったあと、現在は、駐車場となっています。





薩摩藩蔵屋敷跡の近くには、長崎 88 番札所の第 11 番渡瀬地藏堂があります。この地藏堂は、近くにお住まいの方によって、維持されています。

横を流れる小島川も、昔は、渡瀬川と呼ばれたようです。

7. 精霊流し



愛宕町では、自治会が出来る前から、お盆に、精霊船を作って、町内で亡くなった人を、見送って来ました。

左の精霊船は、愛宕町（二丁目）上北自治会が昭和 25 年に、撮影した写真です。

この精霊船も、廃棄物削減と高齢化対策のため、現在は、軽トラックに組立て式の灯籠かけを乗せる形式に代わりました。





左側の写真にある伝統的な精霊船は、上小島 3 丁目自治会の精霊船です。この精霊船の正面に飾る「みよし」には、各精霊船を製作した団体名が記載されますが、愛宕 3 丁目自治会では、右側の写真のような文字が記載されています。この文字デザインは、自治会役員の山下宣行さんが作成しました。

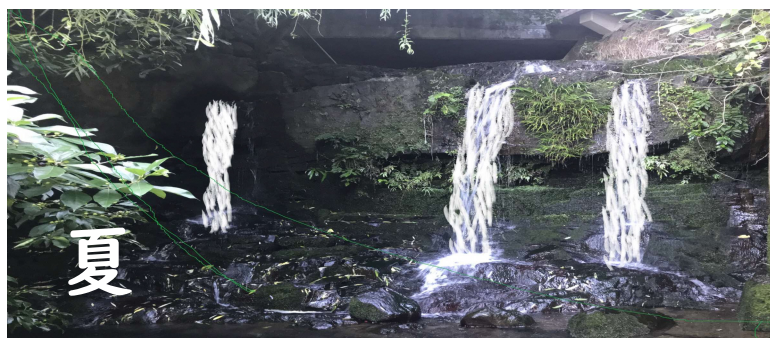
また、数年前から、灯籠かけの上段には、愛宕町の風景写真を PC ソフトで、水彩画風に変換した四季の絵を飾っています。

春



白糸公園の桜

夏



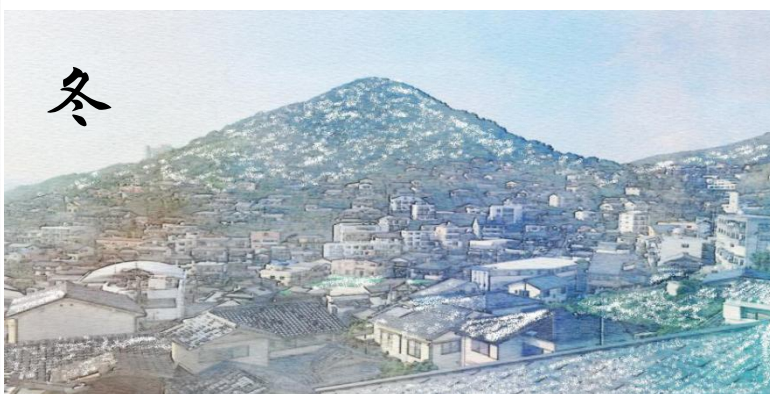
白糸の滝

秋



愛宕中央公園の紅葉

冬



雪の日の愛宕山

8. おくんち神輿守



秋のおくんちには、6年に一度、愛宕町周辺の自治会と一緒に、高野平郷神輿守連合として、参加しており、2025年も、参加しました。今回は、コロナ感染拡大のため、おくんちが3年間中止され、9年ぶりの参加となりました。神輿の担ぎ手（守）集めには、苦勞しましたが、皆さんのご協力により、高校3年生から、50歳以上の方まで、12名の方が参加して頂きました。



令和7年 諏訪神社大祭 高野平神輿守連合 令和7年10月1日



令和7年 諏訪神社大祭 高野平神輿守連合 愛宕3丁目自治会 令和7年10月1日



きもの着付け練習

9. 防火・防災活動



エレナの前には、消防団の第10分団詰所があり、地域の婦人消防団も協力して、防火、防災活動に参加しています。年末には、自治会員の皆さんと、防火パトロールを実施しています。以前は、子供さんも、一緒に、賑やかでしたが、最近では、高齢者が多くなりました。



2013年の防火パトロール
(この年の防火パトロールは、テレビのローカルニュースで放映され、現在も、Youtubeで見ることが出来ます)



2025年の防火パトロール



昭和 33 年（1958）3 月 5 日には、小島小学校の木造校舎が全焼する火災がありました。この写真は、当時、近くにお住まいだった津場さんが撮影されたものです。当時の生徒約 1900 名は、全員無事に、山手の旧玉木女子高グラウンド（現在は、マンション）に、避難することが出来ました。この写真で、消火活動を行っているのは、愛宕地域の消防団の方と思われます。当時は、各地域の消防団が、仕事を止めて、消火活動を行っていました。





1982 年（昭和 57 年）の長崎大水害では、愛宕町でも、がけ崩れが発生しましたが、幸い、人的被害は、ありませんでした。



平成 3 年（1991 年）には、大型台風 19 号が、長崎を通過し、強風で、高台の家屋の屋根が破損する災害がありました。

最近も、梅雨の豪雨では、町内の石垣が壊れる小規模な災害が発生しています。また、長崎市内の斜面住宅地では、集中豪雨などによって、家屋が倒壊するような大規模ながけ崩れも、発生しています。



10. 旧吉田牧場周辺

吉田牧場の跡地↓

料亭「幾松」の敷地↓



この航空写真は、昭和 37 年（西暦 1962 年）に国土地理院によって、愛宕町上空で撮影されたものです。写真の左上には、吉田牧場の跡地や、中央には、料亭「幾松」の敷地が見えます。

次ページの写真は、大正 11 年頃に、硝子板写真機で、撮影された吉田牧場で、遠くに、田上の山並みが見えます。この吉田牧場も、昭和 30 年代には、住宅地になりました。この牧場は、昭和の始め頃、この付近に長崎一といわれた規模の牧場で、吉田牛乳店が経営していたことから吉田牧場と呼ばれていました。牧場には乳牛が十数頭いたといわれ、当時、牧場沿いの道からはお乳を搾っていた光景が見られ、独特な臭いがしていたそうです。しかし、昭和 30 年頃に、閉鎖されました。今でもこの付近の電柱には「吉田幹線」の文字を見ることができます。また、バス道路沿いには、牧場の入り口にあったコンクリート塀（通称、万年塀）の一部が、残っています。





日仏合作映画「忘れえぬ慕情」
(アマゾン Prime Video で視聴可能)
の QR コード

(出典 : <https://misakimichi.com/archives/3714>)

現在、愛宕病院と老人施設サンブライト愛宕がある場所には、昭和30年代まで、高級料亭「幾松」がありました。

映画「忘れえぬ慕情」の映画館ポスター(手書き) ↓

NBC 長崎放送のアパート ↓

この「幾松」で、昭和31年に撮影された日本初の日仏合作映画「忘れえぬ慕情」(岸恵子主演)は、現在も、インターネットのアマゾン Prime Video



(有料)で見ることが出来ます。この映画では、愛宕町の他に、三菱造船所、浜の町、新大工町、キャバレー「銀馬車」などのなつかしい風景も見ることができます。この映画の主演女優であった岸恵子さん(当時21歳)は、昭和32年に、この映画監督であったイヴ・シャンピさんと結婚しました。

この料亭「幾松」は、昭和42年(1967)ごろ、NBC 長崎放送のアパートとなりました。このアパートには、当時の共同住宅には珍しいエレベータがついていたそうです。



昭和 24 年の帰国前に撮影されたデルノアご夫妻 ↑

愛宕病院の前の道路は、戦後、進駐軍の長崎地区責任者で、長崎市の復興に貢献されたデルノア氏に感謝して、デルノア通りと呼ばれています。進駐軍司令官であったデルノア氏は、この付近の別荘を宿舎として、使用していたようです。

このデルノア通りには、桜並木がありましたが、マンションが建って、歩行者が危険なために、自治会が長崎県と相談して、歩道を新設する工事をしてもらいました。現在は、上愛宕バス停付近に、桜並木が残っています。この近くには、長崎市が管理する共同墓地があり、自治会および地域の方によって、清掃活動および花壇整備などを行っています。



桜並木 ↓ と花壇



また、この墓地の近くには、明治 25 年に建てられた大きな石碑がありますが、明治 10 年 (1877) に、鹿児島で起きた西南の役の供養塔と思われます。この供養塔前の横断歩道も、自治会の要望で、設置されました。



11. 愛宕山周辺



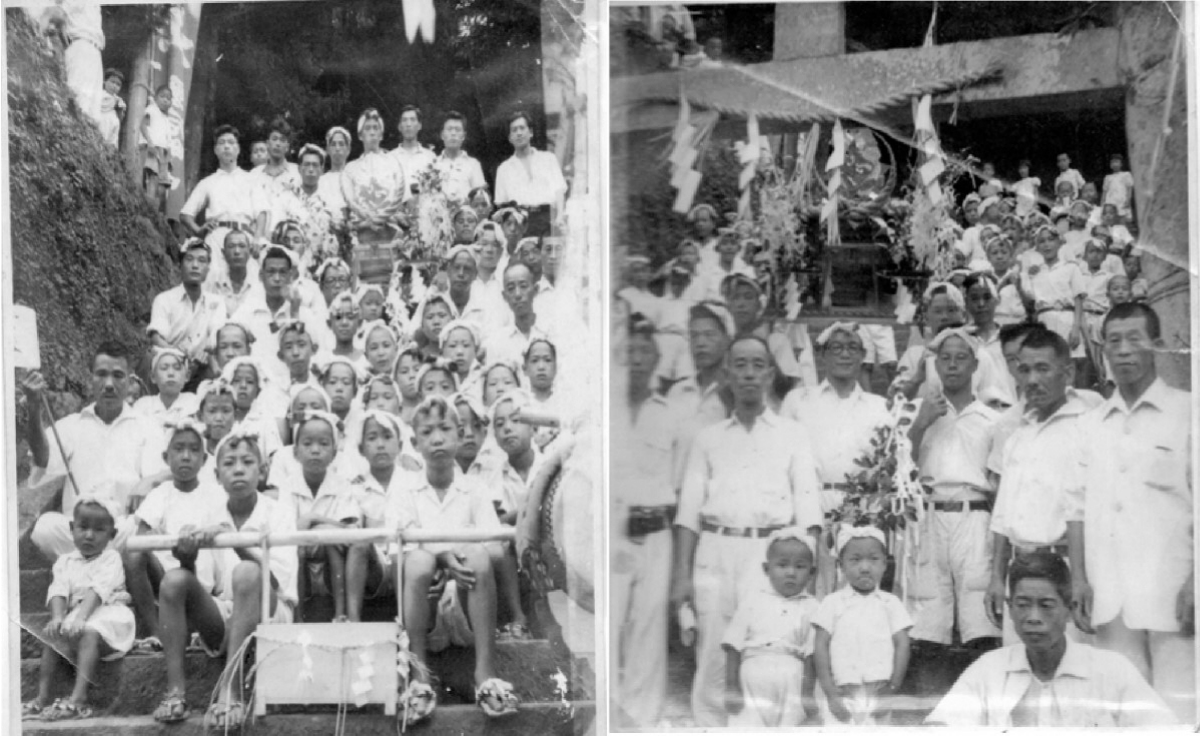
小林勝さんが、昭和 41 年に撮影した洋品貿易商本田屋の洋館別荘（その後、リンガーハットとなりました）

この絵は、最初に紹介した愛宕町のパノラマ写真を撮影した小林勝さんのお父さまが、昭和初期か大正時代に、描かれた風景です。愛宕山の頂上付近まで開墾された段々畑と民家の街並みに、当時の生活が偲べれます。手前の家並みは、別荘地だったようで、現在の愛宕病院付近にあった洋館（デシラ氏宅）では、ダンスパーティが開催されていたそうです。このデシラ氏宅には、愛宕病院の初代院長である宇宿誠五さんが、学生時代に下宿されていたそうで、昭和 28 年に、この近くに、愛宕病院を創設されました。



愛宕山の麓には、寛永 20 年（1643）年に創建された愛宕山大光院願成寺がありましたが、明治維新後の廃仏毀釈により、愛宕神社となりました。最初に、「2. 小島小学校」で紹介した古写真には、江戸時代の寺院が写っています。

愛宕神社は、昔から、この地域の精神的な拠り所でしたので、毎年、8 月には、愛宕町連合自治会も参加して、例大祭が開催されています。



子供たちによる例大祭の樽みこし



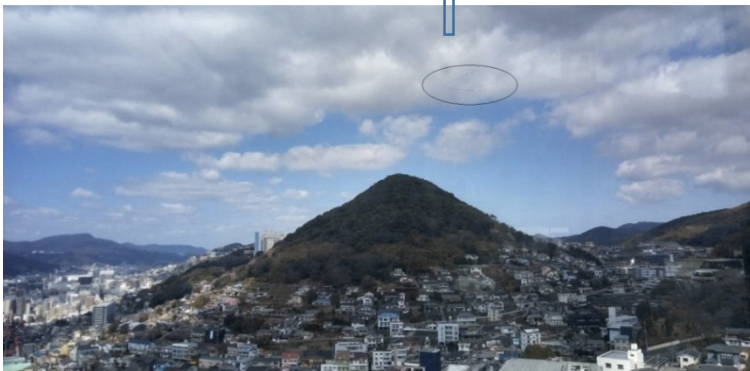
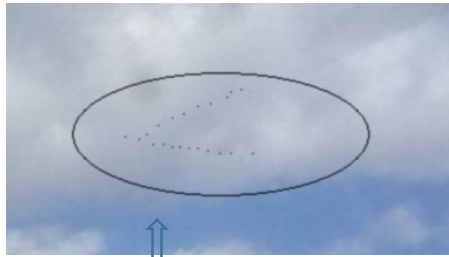
この神社の奥の院は、愛宕山の山頂にありますが、
険しい山道を登る必要があり、現在は、お参りする
人も少ないようです。

12. 歴代会長紹介

長崎県は、鹿児島の出水平野で越冬した鶴が、北帰行する際の飛行航路にあたるので、運が良ければ、2月ごろ、愛宕山の上をカギ型で編隊飛行する鶴の群れを見ることが出来ます。

鶴が、カギ型で、編隊飛行するのは、先頭を跳ぶリーダーの鶴の翼の先から、斜め後ろに流れ出る「翼端渦」が、後ろを飛ぶ鶴の揚力を、増加させる効果があるからだと考えられます。この姿は、自治会のリーダーである会長さんの指示を頂いて、自治会役員と会員が相互協力することの大切さを教えてくれます。

鶴の北帰行→



あまりにも
突然なる
大人(おとな)の計報なりき
疎遠していし
吾(われ)を悔しむ

愛宕三丁目自治会 初代会長：森高德次郎さん(1972年～1977年：5年間)

(残念ながら、お写真が見つかりませんでしたので、森高さんが、同人誌「長崎手帳」(No.14,1958)に、寄稿された短歌会のお仲間への送別の短歌をご紹介します。)



第二代会長：城戸十四男さん 第三代会長：山下重義さん 第四代会長：園田洋子さん
(とよお)

(1977年～1983年：6年間) (1983年～1998年：15年間) (1998年～現在：27年間)

愛宕3丁目民生委員

山下 いえと さん

土肥 朱美 さん

「50周年記念誌」作成協力

簗先 好紀 さん

(元小島地区ふれあいセンター所長：平成15年度から平成29年度)

令和7年度（2025年度）愛宕3丁目自治会役員名簿

会 長 園 田 洋 子

副 会 長 山 下 宣 行

副 会 長 坂 本 洋一郎
(庶務幹事)

相 談 役 片 峰 茂

防犯部長 森 山 竹 則

防火部長 山 下 重 子

衛生部長 大 場 良 二

青少年部長 後 藤 哲 治

会計幹事 宝 亀 喜代子

会計監査 峯 京 子、園 田 敏 朗

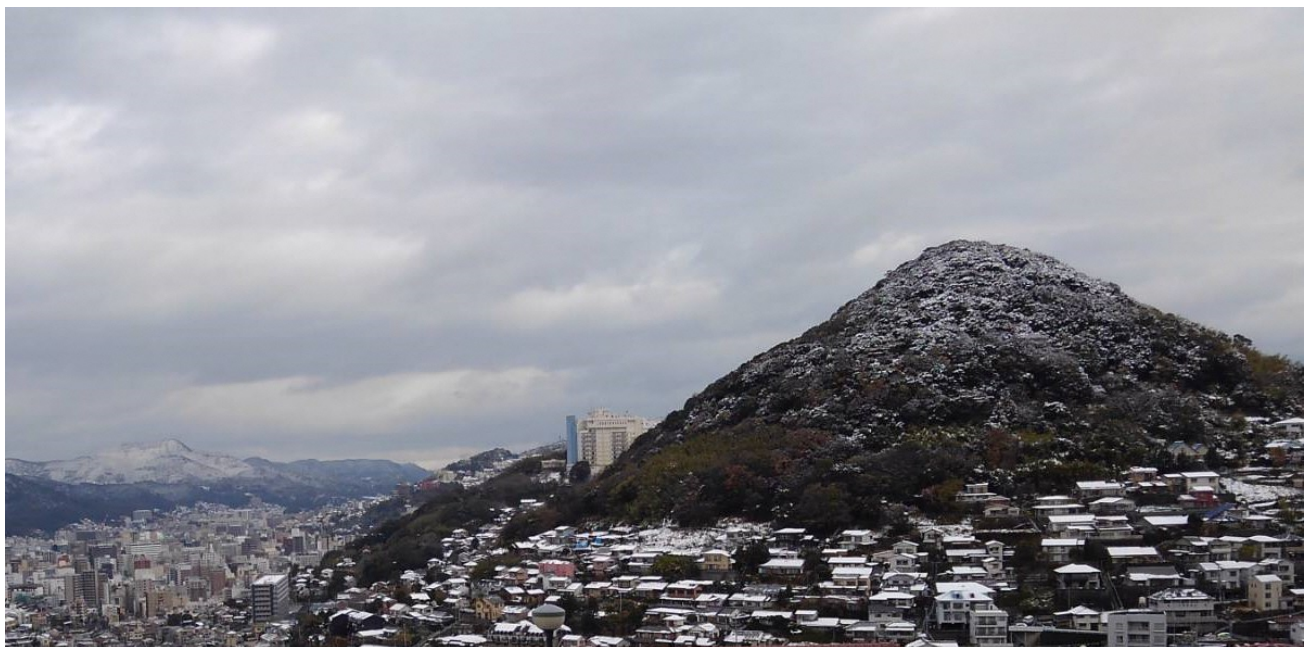
道上地区長 土 肥 朱 美

道下地区長 石 松 圭 子

白糸地区長 簗 先 保 子



江戸時代の長崎版画「愛宕暮雪」



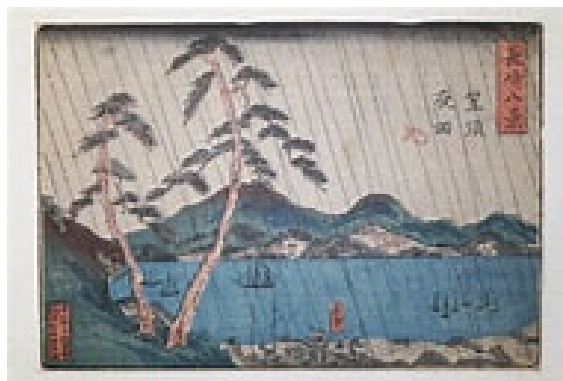
雪の日の愛宕山（現在）

この製本は、岩永印刷所（〒850-0823 長崎県長崎市弥生町 8 番 30 号、電話番号：095-821-2341）に、お願いしました。



付録：長崎八景（全図）を紹介します。

（出典：<https://www.city.nagasaki.lg.jp/nagazine/hakken08031/>）



笠頭夜雨（風頭山）



市瀬晴嵐（蜷茶屋付近）



神崎帰帆（女神大橋付近）



立山秋月



稲佐夕照



大浦落雁



安禅晩鐘（諏訪神社付近）